

なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員

姫路市北条宮町
215番地
TEL079-287-1025

いつまでもワクワク!



その日はあけびの通所日ではないので、ゆっくりとした気分朝9時に何気なしにテレビをつけると、ちょうど第86回選抜高校野球の開会式を実況中継中。あの広い甲子園球場の大観衆の瞳が見つめる中、女子高生の司会者の凛とした若さあるれる声が開会を宣言。入場行進が始まった。出場32校の若さと希望に満ちあふれた顔、顔、顔が続く。まさに感動の圧巻だ。国歌を独唱。そして一言一言「気持ちのこもったさわやかな選手宣誓。まさに躍動する心浸る思いだった。いつの

まにか、テレビを観ている私は甲子園の観衆の一人になり、晴れ晴れとした気分を味わっていた。

私事になりますが、今年の一月満90歳を迎え、自分では前向きと思いますが、体の動きは悪く気分的に落ち込みやすい。また、皆さんとの会話にしても喉の引っかけりが治らず声が出にくい上に、最近では耳が遠くなって皆さんとの会話を楽しみたいと思っても話



姫山公園から見える姫路城
《平成の大修理を終え工所用鉄骨を撤去中》

た。こんな気持ちになっている私に、この日の高校生の姿は、頑張りと言わんばかりに、ワクワクの

感動を与えてくれた。体は動きにくくなくても、いろいろな事にワクワクする感動する心を持ち続け、少しでも前向きに日々生活をしていきたいと痛感した。

「あけび」での生活は、そういうことに出会うことが多い場だ。一人で見ると落ち込みそうになるが、桜見に出かけ自然のパワーに感動しながらみんなの輪の中にいることの喜びを実感したり、ビーチボールバレーの回数に燃えたりと、ワクワク心動かす機会を身の回りに作ってもらい、本当に有難いと感じの気持ちで一杯だ。これからもみんなのために、ますますの「あけび」の発展を心から願いたい。

文と写真 岩村 和雄



なかまの皆さんと

ティータイム

永らく休刊いたしておりました「なかま新聞」を皆様のご要望もあり4月15日号より復活することになりました。日頃感じたこと、要望、嬉しかったこと、腹がたったこと、心に感じたこと等を、紙面にし、仲間の心、雰囲気を大事にした編集にしたいと思います。

パーキンソン病という不治の病に取りつかれた体ではありませんが、快適な生活をしたと考えます。花見もさることながら、旅に出るのも、趣味に打ち込むのも一考かと思えます。この新聞に携われる事も私の楽しみの一つになるかと思えます。

4月には手柄山の桜の下でビールをいただきました。春を満喫した一日でした。

長谷川 和宏



仲間の声

孤高の一本桜 木下 素子

今年も三月二十日に開花宣言があり、一気に桜前線も北上し、花びらが散っていく潔さなど、それぞれ人々を感動させます。

そんな中で各地に樹齢何百年かを生きてきた古木があります。

私は、一本だけで長い間生きてきた、そんな樹木に愛着を覚えます。たとえば、近くの佐用町の光福寺の境内にある大系桜がそれです。のどかな山里の原風景の中にあつて、土塀の内から隆々と立ち上がった古木が枝を垂れ、その下に薄紫



光福寺の桜 (インターネットより)

の大根の花が咲くさまは、まこと夢幻の境地に誘い込まれるのです。樹齢三百年と云われる

此の桜の大樹は、静かに村人たちの日々の営みを見守ってきたのでしょうか。このお寺の先代の住職の「一生の間に、この桜が大きくなったとも、小さくなったとも思わなんだ」との述懐にもおおよらかな時間の流れを感じるのです。幾度か訪ねたこの地ですが、もう一度自分の足で訪ね、ゆっくりと過ぎる時間のながれに身をゆだねてみたいと思うのです。

孫自慢



トラッキーと一緒に

孫の知義です。 岩佐 君代

二歳八か月になりました。甲子園球場近くに住んでいるせいで、自分の家の庭を球場に見立ててバットやボールの真似をしたり、サッカーのボールを蹴って遊んでいます。こちらに来ると、おじいちゃん

を相手にバッティングの練習。「おじいちゃんピッチャー、知君バッター」と指名され、頑張っているおじいちゃんです。

孫の成長を楽しみに、元気を貰っています。



井神 信也

パーキンソン病の印(しるし)を押されて、はや九年目になる。昨年頃から度々後ろに倒れることが多くなった。それは、十分に睡眠がとれなくて、体に疲れが残っているようなとき、立っていると

バランスを崩して尻もちをつく。つい最近のことだが、会議に参加しての帰り道、はじめは少しはや歩きだったが、途中から小走りになり、ブレーキが効かなくなつて足がもつれ転倒してしまった。その時、左肩打撲と額に七針の傷を負って、直ぐ立ち上がることが

出来ずもがいていたら村の人が来て起こして貰って助かった。このことから路上での歩き方をリハビリの先生に教わった。それは前に突っ込まない、先ず姿勢を正してから前に進む、これらを自覚して歩かないと再度転倒するとの

注意だった。

パーキンソン病になってから、これまで、未知の人々に援けられ励ましの言葉を貰った。これからも、こんな素晴らしい人達と共に生きていこうと思う。リハビリの先生から教わった歩き方を守って。

文と絵 芹澤 登代子

岩村さんが、絵手紙の画材として、いろいろ花を持って来て下さいませ。三月はふきのとうでした。春のイメージもすぐに沸き、楽しく描くことができました。いつも娘さんが大切に育てられた花が提供されます。有難うございます。



わが庭に朝見つけー路の莖

デイサービスに持ち来て

翁は描く 南光桂子

(註・翁は岩村和雄さん)